

# 学校関係者評価報告書

学校名: あいち福祉医療専門学校

## 1 令和2年度 学校目標

当事者意識、貫徹意識、学園意識をもって学園ならびに学校経営理念を再認識し、前年度実績を踏まえ、「不易流行」「和衷協同」の観点でより一層の教育力と協働意識を高めて教育付加価値/学修成果を追求する。

- 1) 「当事者意識」「貫徹意識」「学園意識」の自覚を高める自己点検と情報の共有・協働
- 2) 出席率98%超、退学率5%以内、進級率・卒業率94%超
- 3) 国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%(年内70%)
- 4) 総定員充足率80%(352名)以上の安定確保が目標
- 5) 遠隔授業
- 6) 校友会運営の協働(部会活動の活性化)
- 7) 介護福祉学科カリキュラム改定、3学科実習指導者研修会の取り組み
- 8) 新指導要領に沿う介護技術講習
- 9) 出前授業・総合学習受け入れ、実務者研修・総合確保基金研修開講
- 10) 学園展開の海外との教育連携とともに実際の取り組み
- 11) 介護福祉学科外国人留学生受入促進・教育体系化
- 12) 他団体の介護福祉士養成システムとの協働
- 13) 入学生176名(入学定員充足率88%)の目標
- 14) AOエントリー含む出願者数240名
- 15) SNSおよびトピックス活用へ三意識をもちホームページ広報の活発化
- 16) 経費節減、教育研究経費・管理経費の在籍者数に応じて意図的削減
- 17) ペーパーレス、オンライン意識・整頓意識定着
- 18) 養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理
- 19) 各教値目標の階層的把握
- 20) カリキュラムマップ(AP-CP-DP)に即したロードマップおよび卒業教育展開
- 21) 情報の共有・協働を見える化するコミュニケーション促進

## 2 学校目標に対する学校関係者評価委員の評価・意見

- ①学修成果については職業実践教育の観点から国家試験合格率についての評価は真摯に受け止める必要がある。
- ②全国平均を大きく上回る事への学生・保護者の期待が大きいと考えられるので、今後のY-Aメソッドの効果が期待したい。
- ③卒業後の同窓会活動を含め、卒業生の学内教育への参加を評価してはどうか。
- ④退学率は減少傾向にあるが、退学理由としては単に学力だけでなく、コロナ禍における経済状況やコミュニケーション不足も影響していると考えられる。教員と学生、学生どうしの課外時間でのコミュニケーションが重要ではないか。
- ⑤介護離れで学生を集めるのはかなり苦勞をされていると思うが、良い成果を出されているので素晴らしいと思う。
- ⑥退学率の減少は素晴らしい。
- ⑦コロナ禍で外部との接触や学生間でのコミュニケーションの取りづらさの中、苦勞して工夫し、取り組まれた結果、退学者の減少等、成果が表れていると思う。
- ⑧コロナ禍にあっても満足に実習や授業が受けられない中でも、全体的に見て国家資格取得率が上がっている。
- ⑨理学療法学科、作業療法学科で導入されているY-Aメソッドは効率的で効果的と感じた。これからも継続発展させてほしい。
- ⑩実習先によって評価や現場の状況が違うので統一した見解を求めることは難しいと思うが、OSCEの効果がどれだけあるか知りたい。
- ⑪医療従事者不足の現状の中、外国人留学生の受入れと教育を熱心に行なっていくという姿が感じられた。
- ⑫コロナ禍の中、臨床実習施設の確保が難しい現状、学内やリモート実習を実施する等、新たな取り組みを行なっていくという姿が素晴らしい。
- ⑬作業療法学科の定員が満たせるように、学科の魅力をアピールする方法を検討してほしい。
- ⑭国家試験合格率の向上に努めて欲しい。また、学生の能力向上を図ることができる臨床実習の進め方を望む。

## 3 学校関係者評価委員による評価平均(「令和2年度学校自己評価報告書」に基づく)

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取り組みが適切か	今後の改善方針が適切か
基準1(教育理念・目標)	4.0	3.9	4.0
基準2(学校運営)	4.0	4.0	4.0
基準3(教育活動)	4.0	3.9	3.9
基準4(学修成果)	3.5	3.5	3.8
基準5(学生支援)	3.9	3.8	3.9
基準6(教育環境)	4.0	3.9	4.0
基準7(学生の受入れ募集)	3.9	3.8	3.9
基準8(財務)	3.8	3.6	3.8
基準9(法令等の遵守)	4.0	4.0	4.0
基準10(社会貢献・地域貢献)	4.0	3.9	3.9
基準11(国際交流)	3.8	3.5	3.6
評価基準	4: 適切な評価である 3: ほぼ適切な評価である 2: やや不適切な評価である 1: 不適切な評価である	4: 十分適切な取り組みである 3: ほぼ適切な取り組みである 2: あまり適切とはいえない取り組みである 1: 適切とはいえない取り組み	4: 十分な効果が期待できる 3: ほぼ十分な効果が期待できる 2: あまり効果が期待できない 1: 効果は期待できず、改善を要する

## 4 「令和2年度学校自己評価報告書」について学校関係者評価委員より出された意見(自由記述)

- ①オープンキャンパスに参加した高校生が、本校の卒業生など現場の声を聞ける場があれば、イメージしやすいのではないか。
- ②定期試験などで、レベルの高い学生、低い学生を混ぜて、グループ分けして全体に底上げに取り組んでほしい。
- ③定期試験にて伸び悩む学生は特別講義などを実施して、勉強の取り組みを促してほしい。
- ④評価考察にも書かれているが、学科履修にあわせ1・2年次からの国家試験対策についての企画を検討すべきではないか。
- ⑤介護福祉学科の留学生と、他学科の学生の交流を図ることにより、学生の国際感覚を身につけるきっかけにならないか。
- ⑥国語力、理解力、表現力等を高める様なロールプレイやカンファレンス等を取り組んでいただきたい。
- ⑦外国人留学生も増え、国家試験合格への対策等大変かと思うが、早めの取り組みをしてほしい。良い結果を期待している。
- ⑧外国人留学生の支援が資格取得成果につながると思う。
- ⑨OSCEは大切だと思うが、実際の治療現場を数多く見るのが一番の教育だと思う。
- ⑩保護者、医療従事者の立場として、退学者を少しでも減らし、国家資格に挑戦できる体制を作っていただけるようお願いする。
- ⑪学生のためになるための方策、例えばカウンセラーの常駐等を充実させてほしい。
- ⑫臨床実習等に学生1人で行くと同っている。生徒の自立心を考慮してのことと拝察するが、見知らぬ地に1人で行くのは不安であろうと思う。複数で実習参加することはできないか。

## 5 今後の改善方針

学校関係者評価委員からはすべての項目について“3”以上の評価をいただいた。これも教職員が丸となって学校目標達成に努力した賜物であろう。この評価に満足することなく今回学校関係者評価委員から出されたご意見も参考にし、学校運営に取り組み、“Well Being”を追求する所存である。

### ①退学率の減少策について

令和2年度の年間を通じた退学率は2.6%と、例年より少ない数字となった。退学率減少の要因は今後詳細に分析する必要があるが、担任、学科担当者を中心としたきめ細かな学習指導に起因しているといっても過言ではない。学校においては、退学防止は永遠の課題でもあり、特効薬はないが教職員各人が学生に寄り添い、よりきめ細かい学習指導を進めていきたい。

### ②教育環境の整備について

本校は学園本部からの予算配賦額に従い、毎年度定期的に教育機器の更新、建物の修繕を行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として各教室に低オゾン発生装置を設置し、感染軽減に努めた。令和3年度は特別演習室にも低オゾン発生装置を追加設置するとともに、出入口にサーマルカメラの設置を予定している。

本校は毎週月曜日に臨床心理士が常駐する“ほっとルーム”を開設している。“ほっとルーム”での相談については相談者のプライバシーが完全に守られている。今後、担任と“ほっとルーム”の臨床心理士が連絡を取り合い、学生の些細な変化も見逃さないよう心掛けていきたい。

委員ご指摘のとおり臨床実習は1施設1名での参加となっている。これは参加枠が1名の実習先が大半を占めていることに起因する。今後、実習指導者講習会を通して実習先と交流を深め、複数の実習枠を確保できるよう努力したい。

### ③外国人留学生に対する教育について

日本政府も介護分野の人員不足を解決することを目的に外国人の受け入れを促進している。本校も今後積極的に外国人留学生を受け入れ、介護人材養成に寄与する。外国人留学生を受け入れるにあたり危惧されるのが日本語の理解力である。本校では、募集要項に入学時の日本語能力を明記(日本語能力試験N3相当)し、出願前に“外国人留学生入学相談会”への参加を義務付け、日本語能力試験を実施し、日本語能力が本校の基準に達している者に“出願許可”を与えている。ただし、“出願許可”は入学試験合格を保証するものではない。令和3年度からは、課外において“日本語の補習”授業を開催する予定である。

“介護福祉士等修学支援貸付制度”は外国人留学生も利用することができる。外国人留学生にも、入学前からこの制度を紹介し、手続き方法を周知している。“介護福祉士等修学支援制度”を利用することにより外国人留学生が、アルバイトに追われることなく勉学に集中できる環境が整うと予想される。

在留資格期間更新等の手続きについては、本校内に担当教員を決め、外国人留学生の申請援助を行っている。

委員ご指摘のとおり、外国人留学生と他学科の学生との交流は重要と考えている。学校祭等を通じて日本人と外国人留学生の交流を促進したい。